

ともに

発行：平成30年12月3日
編集：復興政策部地域協働課
電話：95-1111（内線4234）

石巻市女性活躍推進会議が発足しました

平成27年に、「女性の職業生活における活躍の促進に関する法律」（女性活躍推進法）が施行され、301人以上の従業員を抱える企業では、「事業主行動計画」の策定が義務づけられました。

本市においては、女性活躍推進計画を石巻市男女共同参画推進基本計画第3次に包含し、平成29年3月策定しています。女性活躍推進計画は、男性中心型労働慣行等の変革や子育て支援の充実などを施策の方向に定め、女性の個性と能力を十分に発揮し、活躍できる環境整備に向けて様々な取組を実施しています。

さらに、女性の活躍を推進していくためには、市内企業における現状把握、情報の提供、連携などが重要になってくることから、女性活躍推進法第23条第1項の規定による協議会を立ち上げました。

名称は「石巻市女性活躍推進会議」とし、平成30年8月31日に第1回会議を開催しました。

第1回の会議では、立ち上げの経緯、会長、副会長の選出、女性活躍に関する国の動きなどについて事務局から説明し、委員の皆様の職場の状況などを話していただきました。

女性活躍の推進は、今後人口減少や少子高齢化に伴う労働力の減少に対しても、女性の人材、労働力が期待されます。本市においても、女性のみならず多様な労働者の働きやすい環境の創出など、この会議で検討していきたいと考えています。

石巻市女性人材育成セミナー実施

凛と

世界一受けたい授業 レディー&母(ガガ)
エンパワーメント&リーダーシップ



自分らしく輝く、生きたい女性のための自分軸養成講座

今年もコーチング研修会社ドリームフィールド代表の阿部侑生氏を講師に迎え、自己肯定感を高め、本来持っている自分のパワーを理解し、地域・職場・家庭等でまわりの能力を引き出せるリーダーシップを発揮できるような人材の育成を目的に、9月11日（火）から11月15日（木）に開催しました。

先生から、「自己対話を通して、自分を満たす・ご機嫌にすることが大切」「悪いと思っている事でも、見方・受け止め方を変えると良く思えてくる（リフレーミング）」という魔法の言葉も教えていただくなど、とっても前向きな気持ちになれる全6回のセミナーでした。

受講生の方々には、「心のあり方を大切にすること」や「相手にI（アイ）メッセージを意識的に伝えよう」など、自分から発信する大切さなどを学んでいただきました。これから地域など様々な場面でご活躍いただけることを切に願っています。ユッキー先生、本当にありがとうございました!!



※アイメッセージ＝「私（アイ）」を主語にして伝えるメッセージ

性的マイノリティ講演会「LGBTは、いないのではなく、『見えていない』だけ」を開催しました。



平成30年11月5日(月)、石巻市防災センターで開催された性的マイノリティ講演会「LGBTは、いないのではなく、『見えていない』だけ」には、市職員をはじめ民生委員児童委員、人権擁護委員の皆様など多くの方々にご参加いただきました。



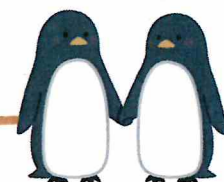
本講演会では、東京都渋谷区長 長谷部健様、同区男女平等・ダイバーシティ推進担当課長 永田龍太郎様を講師に迎え、渋谷区の実情やLGBTの基礎知識などを講演いただきました。

渋谷区では、同性同士でも異性間の婚姻関係と異なる程度の最大限の配慮が受けられる権利を保障するパートナーシップ条例を全国で初めて制定し、パートナーシップ証明書を発行している先進地であります。

性的マイノリティにはグラデーションのように様々なタイプがあり、ひとくくりでいえるものではないこと、当事者と見たらひとりでは悩まないこと、打ち明けられた周りの人々は「打ち明けてくれてありがとう。」等の気持ちで迎えてほしい、など気づかされる内容の講演会でした。

多くの人々が当事者たちに寄り添い、支援する「LGBTアライ」となってくれることを願い、また差別のない世界が訪れることを祈ってやみません。

長谷部区長、永田課長、素晴らしいお話をありがとうございました。



男女共同参画 関係用語 ★豆知識★

「アンコンシャス・バイアス」って知っていますか？

ちょっと難しげな感じがします…日本語だと、「無意識の偏見」「無意識の思い込み」など、自分自身が気づかずに偏った認識を持っている状態を表します。

例えば、「子どもがいる女性社員に残業はさせられない。」とか、「理系=男性、文系=女性」などの固定観念もひとつの表れだといえます。

なぜ、「無意識の偏見」が起こるのでしょうか？それは、人は誰しも、それまでの生活や習慣の中での経験や刷り込みに照らし合わせ、ものごとを主観的(自分なり)に解釈してしまう機能を持っているからです。しかし、主観的な解釈は客観性に乏しいゆえに、さまざまな面で誤解を生むことがあります。先ほどの例でも「子どもがいる女性は、家庭で子育てが大変だから、残業はさせない方がいいだろう。」という気遣いであったとしても、当の女性社員はもっと仕事をしたい、と考えているかもしれません。

そんな小さなすれ違いが職員のやる気を削いだり、「がんばっても無駄」などの負の感情から本来持っている能力を発揮できない状況を生みかねません。

「無意識の偏見」を減らすために、自分を客観的に捉え、その気遣いが本当に相手には必要か、それが真に相手の思いに沿ったものかを考え、コミュニケーションをとってみましょう！



●編集後記● 今回の「ともに」…なんとか発行にこぎつけてほっとしています。様々な講座を通じて、人生前向きに考えられることは最強の武器だなー、なんて感じましたし、同時に最近あちこちで聞く『自己肯定感』を得たうえでほかの人を理解すれば世界に平和をもたらせるかな？なんて思いました。私的にですが、今回実施した講座の内容は、これから成長していく子供たちにも伝えて、「前向きに」そして「一人で悩まないで」というメッセージを伝えていければいいなと思っています。

by 最強の後向き

◇今後も、「ともに」を通じて、随時、様々な情報を提供し、男女共同参画社会づくりを啓発していきます